

日南市4つの学ぶ力の育成

○他者から学ぶ力 ○自ら学ぶ力 ○自然から学ぶ力 ○社会から学ぶ力

- 1 学校の教育目標 「心豊かに 体をきたえ 自ら学ぶ 実践力のある子どもの育成」
- 2 めざす学校像 「児童一人一人が輝く学校」「美しく清潔で安心・安全な学校」「地域と連携して、生き生きと活動する楽しい学校」
- 3 めざす児童像 「かんせいの豊かな子」「がまん強くがんばる子」「やさしい子」「きょうりよくする子」
- 4 めざす教師像 「自ら学び、資質・指導力の向上に努める教師」  
「児童と地域を愛し、ともに磨きあう情熱ある教師」  
「積極的な経営参加と一致協力して取り組む教師」

<学校経営ビジョン>

小規模校の特性を活かし、全職員が「チーム酒谷」として創意ある教育活動において「4つの学ぶ力の育成」にあたるとともに、保護者、地域との連携・協働を推進することで、学校の教育目標(心豊かに 体をきたえ 自ら学ぶ実践力のある子どもを育成する)の具現化と、地域に信頼される学校づくりに努める。

重点目標	具体的目標	自己評価結果	評価	運営協議会委員評価
確かな学力の定着	○ 「分かった」「できた」と実感できる授業展開と指導法の工夫改善	全学級において、今日の授業で何を学ぶかがわかる課題(めあて)を提示し、授業の最後には、児童が何を学んだかを児童自身でまとめる授業づくりに取り組んだ。また、校内研修の主題を『「わかった!」「できた!」を実感しながら「確かな学力」を身につけていく児童の育成～各教科におけるICT機器の活用の在り方～』とし、ICT機器を活用した授業に積極的に取り組んでいる。	3	3
	○ 読書習慣の定着	図書室と「たいよう号」を活用して、読書活動を推進している。(1月31日現在 50冊表彰が1名)。「旅する読書」に関しては、児童・保護者・教師ともアンケートの結果が低いことから、学校でも家庭でも啓発を行っていききたい。昨年度より、言語的環境を整えるため、新聞コーナーを設置し、作文等の投稿も行っている。児童が新聞への興味をもつようになり、読む頻度が増えてきている。	2	
	○ 学習訓練の徹底と複式授業の充実	学習指導週間を設け、学習部を中心に、学習訓練等について職員間で共通理解を図り、児童への指導を行っている。	3	
	○ 授業と連動した家庭学習の推進	基礎的・基本的な内容の定着や学力向上を図るためにその日の授業の定着を図る宿題を、各担任で実態に合わせて工夫して出している。今後は、家庭との連携を図りながら、形式的なものから効果的なものとなるように工夫し、家庭学習の習慣づけを図る指導を行っていく。	3	
	○ その他 ☆ ICT機器の活用	授業の中でタブレットやデジタル教科書を活用して、調べたり、自分の考えをまとめたり、考えを共有したりする活動を各学年の実態に応じて行っている。職員も児童も操作に慣れてきている。今後は、効果的な活用について、研究を深めていきたい。日南キューブの活用についても、継続して行っていく。	4	
豊かな心を育む教育の充実	○ あいさつ運動の充実	虹色あいさつ運動や毎日のあいさつは、国道を走る運転手に対しても元気に気持ちのよいあいさつができています。来校者や地域の方へのあいさつや、様々な場面での返事についても進んで元気よくできるように働きかけを行っている。	3	3
	○ いじめ防止基本方針の推進	いじめ・不登校等対策委員会(毎月実施)において、子どものアンケート結果について全職員で今後の対応を考え指導に当たっている。また、特別支援教育の研修も実施し、個に応じた指導や合理的配慮等、支援の在り方を全職員で考えている。	3	
	○ 道徳指導の充実	参観日に人権に関する授業を全学級で実施した。授業以外でも「おもいやり週間」を定め、友達の良いところを見つけ、全校児童	4	

令和3年度 酒谷小学校学校評価

		に発表して伝える活動を行っている。今後も日常指導や学校行事と道徳の時間との関連指導を通して、学校生活を充実させていく。		
	○ その他 学校生活の満足度	児童が楽しく学校生活を送り、満足感を感じていることが分かる。今後さらに個に応じた指導を進め、認め、励ましながらかつ充実した学校生活を送ることができるようにしたい。	3	
健康・体力の向上と安全教育の充実	○ 基礎体力の向上	体育の時間に十分な運動量を確保する指導を心掛けている。姿勢に関しては、児童・保護者・職員とも評価が低く、課題であるので、家庭と連携しながら指導を進めていく。体力向上プランに関する職員の意識化を更に図り、実践していく。	3	3
	○ 危険予測・回避能力の育成	避難訓練を年5回（風水害の避難訓練の引き渡し訓練、警察と連携した不審者対応訓練、消防本部・消防設備会社と連携した火災訓練、津波に対応した地震訓練、予告なしの避難訓練）実施した。想定をいろいろと変え、臨機応変に対応し、自分の命は自分で守ることのできる児童の育成を継続して進めていく。	4	
	○ 家庭、関係機関と連携した食育・健康教育・安全教育的の充実	健康オリンピックを実施し、健康に関する個に応じた指導や保護者に対する支援ができた。市の重点項目であるむし歯予防や肥満予防についても、タブレットを活用して個別の歯みがき指導を繰り返したり、家庭への啓発を行ったりしている。	3	
開かれた学校づくりの推進と家庭・地域との一層の連携	○ 学校の積極的な情報発信	ホームページで、児童の活動の様子を紹介し、大事な情報はあんしん・あんぜんメールを活用した。学校便りを発行し、自治会を通して、各種行事の案内も地域に伝達してもらうことができた。コロナ禍ではあるが、児童や保護者が悩みや困ったことを相談しやすいように、コミュニケーションや発信の工夫を行っていく。	3	3
	○ 地域行事への積極的な参加・地域の人材活用	コロナ禍で地域行事が中止になり、参加することはなかった。今後は積極的に参加する。地域の人材活用では、稲作活動、日南ダム・酒谷発電所、道の駅酒谷の炭窯見学などを行い、酒谷や日南市のよさに気づく活動ができた。今後も酒谷地区や酒谷小を誇りに思う教育ができるよう工夫をしていきたい。	3	
	○ オープンスクール、授業参観日等の充実	年8回の参観授業を計画していたが、実施できたのは7回であった。保護者とは、運営委員会にて学校行事等の打ち合わせを行い、連携を図ることができた。また、地域コーディネーターと連携して、地域の方の協力を得ながら稲作活動等を実施することができた。稲作活動を通して地域の方との交流もでき、児童の様子を見てもらうことができた。今後も地域と協力し、地域と共にある酒谷小の教育活動を充実させていきたい。	4	
	○ その他 ボランティア活動	みどりの少年団活動を中心に学校園や学級園の整備・活用、通学路の清掃などを行った。今後も、奉仕の気持ちをもてるように活動の工夫をしていく。	4	

4 期待以上      3 ほぼ期待通り      2 やや期待を下回る      1 改善を要する

学校運営協議会委員の総評

- 教師、保護者、地域が一体となり、少人数ではあるが懸命に取り組んでおり、心豊かで自ら学び楽しい学校になっている。
- コロナ感染症の影響で、学校運営が大変だと思う。授業時間の短縮や各種行事の中止により、児童の学力低下が心配である。
- ICT教育は、教育改革の流れでやむを得ない。児童にとっても教員にとっても多大なメリットがある一方でデメリットもある。児童の想像力が低下する可能性があることが心配である。
- 「たいよう号」の利用状況が年々減少しており、読書習慣の低下が心配である。読書のすばらしさや大切さを機会あるごとに伝えていただきたい。読書について子どもに自信をもたせるために、読書感想文を発表するとか新聞に投稿することも一つの方法だと思う。